

かん ばつ
間伐材を活用するための努力



【ねらい】 エネルギーを有効活用するため、香川の身近な地域社会の中での新たな取り組みに挑戦する人々の工夫や努力を理解させるとともに、地域社会の一員として、自分たちにできることや今後のエネルギー利用のあり方を考えさせます。

かん ばつ
間伐材を活用するための努力



※資料68（間伐材の温泉利用）で取り組み内容を説明した後、この資料を使用することで、**取り組みに関わる担当者の工夫や努力**に気づくことができます。
なお、**間伐材を活用するための工夫や努力を実際に施設の従業員の方にインタビューし、その内容を収めたDVDを同封していますので、セットでご活用ください。**（インタビュー内容の要旨データは、**付属のCD**に入れています。）

【関連する各教科の学習内容】

	小3	小4	小5	小6	中1	中2	中3
社会	○県の地形や産業、県内の特色ある地域		○森林資源の働き		【地理】 ○世界と比べた日本の地域的特色（資源・エネルギーと産業） ○日本の諸地域（産業）（環境問題・環境保全）		
理科							【公民】 ○私たちが国際社会の諸課題（地球環境・資源・エネルギー問題） ○私たちが国際社会の諸課題（よりよい社会を目指して） ○自然環境の保全と科学技術の利用
技術・家庭(技術)							
家庭							
技術・家庭(家庭)			○快適な住まい方 ○環境に配慮した生活の工夫		○住生活の工夫 ○家庭生活と環境		

【資料解説】

間伐材をボイラー燃料として有効活用する温泉宿泊施設（ビレッジ美合館）の取り組みを紹介しました（資料68参照）が、その取り組みの裏では、大変な苦労と努力があります。

【①の写真】 大変な運搬

燃料となる間伐材を使用するに当たって最も大変なのが、間伐した木を森から搬出し、運搬する作業です。地域で森林保全活動を行う2つのNPO団体の協力により行われますが、森から木を運び出す作業は、その多くを人力に頼る大変な重労働作業です。

【②の写真】 これで2日分

森から搬出した木をトラックで1次乾燥用のビニールハウスのあるところまで運搬している写真です。4tとかなりの量の木材ですが、1日に使用する薪（まき）が2tですので、これで、2日分しかもたないということになります。トラックの積み下ろしだけでも重労働ですが、これを何度も繰り返します。

間伐材の確保のため、最近では、地域の方にも、山林整備などを行った際に出る間伐材を持参してもらい、代わりに温泉入浴券と引き換える取り組みもしています。間伐材温泉の取り組みを通して、地域との連携も一層深めていきます。

【③の写真】 1～2人の作業

トラックから下ろした木材は、チェーンソーで切って丸太状にし、日当たりのよいビニールハウスで約1ヶ月間一次乾燥させます。これだけの量の丸太作りを1人か2人で行うので、作業はとても大変です。

【④の写真】 こまめな温度調整

一次乾燥させた丸太は、ボイラーの排熱で数日、二次乾燥させた後、薪ボイラーで燃やしていきます。従来の重油と違って、火力が弱いので、焚付（たきつけ）には倍以上の時間がかかります。

また、丸太の木の種類によっても火力が違ってきますので、温度調整のため、夜明け前から深夜遅くまで目が離せない長時間の作業が続きます。ボイラー室の温度は、夏場は40℃にもなりますので、大変厳しい作業になります。

撮影協力：オーク開発㈱（ビレッジ美合館）